

『「ひょうご農林水産ビジョン2030」の現状と今後の見直しの方向性について』

- I アンケート結果 P. 2
- II 現地調査結果 P. 7
- III 具体的な課題 P.16
- IV ビジョン見直しの方向性 P.21
- V 農林水産ビジョン2035のめざす姿 P.22
- VI 農林水産ビジョン2035の施策体系 P.27

ビジョン見直しまでのロードマップ

ビジョン骨格案

1 農林水産ビジョンの策定にあたって

第1回総会（R6.6.27）で審議

2 食と「農」を取り巻く情勢の変化

第1回総会（R6.6.27）で審議

3 農林水産ビジョン2030に基づく取組の評価

第1回企画部会（R6.8.27）で審議

4 具体的な課題

第2回企画部会（R6.10.24）で審議
今回確認

5 ビジョン見直しの方向性

第2回企画部会（R6.10.24）で審議
今回確認

6 農林水産ビジョン2035のめざす姿・施策体系

今回審議

7 ビジョン骨格

第2回総会（R7.1.30）で審議

8 めざす姿を実現するための施策展開

令和7年度に審議

Ⅲ 具体的な課題

(○) 具体的な課題

課題の内容説明（赤字は第2回企画部会後に追加・変更したもの）

16

1 農業

(1) 環境と調和のとれた農業技術の開発・普及・定着

温暖化等気候変動の影響を軽減し、持続的に生産を行うため、環境と調和のとれた農業の推進や新品種の開発・普及が必要

(2) 野菜など園芸作物の生産拡大

消費地に近いという本県農業の強みを最大限に発揮するため、園芸作物の生産拡大が必要

(3) 将来の担い手である新規就農者や法人経営体の育成

持続可能な経営を行う担い手を確保するため、新規就農者の確保・定着や法人経営体の育成が必要

(4) 地域協働体制を担う多様な人材の確保

修正理由

「農業者」としていたが、幅広くするため変更

基幹的農業従事者の高齢化や農業就業者数が減少するため、多様な人材の確保・育成が必要

(5) 労働力の確保

国内人口の減少が見込まれる中、労働力を確保するため、雇用就労環境の整備やスマート化が必要

(6) 農林水産物のブランド化による付加価値向上や国内外での販路開拓による経営体の収益力の向上

経営体の収益力の向上のため、ブランド化や6次産業化、異業種連携や輸出促進などの取組が必要

(7) 担い手への農地の集積・集約化

生産基盤整備による農作業の効率化・省力化とあわせて、担い手へ農地を集積・集約し、経営の効率化を図る必要

修正理由

担い手への農地集積には、条件整備が必要なため追記

(8) 都市農業の推進

食料の安定供給や農業の多面的機能の理解醸成を図るため、都市農業の推進が必要

Ⅲ 具体的な課題

2 畜産

第2回企画部会でのご意見

「持続的な畜産業の実現」と「気候変動に対応した畜産技術の開発・普及・定着」を統合し「環境と調和のとれた」を追加すればどうか。

(1) 環境と調和のとれた持続可能な畜産業の実現

温暖化等気候変動に対応するとともに、生産形態・コストに見合った、持続可能な畜産業の実現が必要

(2) 需要に応じた神戸ビーフの供給

旺盛な神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛の増頭・増産が必要

(3) 国内外に向けた県産畜産物の発信強化

需要を創出するため、国内外に向けた県産畜産物の発信強化が必要

3 森林・林業

(1) 環境と調和のとれた持続可能な森林・林業の実現

県産木材の安定生産や森林の持つ多面的機能の発揮には、資源循環型林業の実現が必要

(2) 林業の担い手の確保・育成

県産木材の安定供給体制の継続に向けて、林業就業者の確保・育成が必要

(3) 木材の利用拡大と加工流通体制の強化

県産木材の利用拡大に向けて、非住宅分野での木造・木質化推進、非建築分野での需要創出や販路拡大に加え、新たな価値創出や木育等の推進が必要

修正理由

木育の推進を別項目としていたが、木材利用拡大の手法としてまとめて整理

III 具体的な課題

4 水産業

(1) 豊かな海と持続的な水産業の実現

豊かな海の再生を目指した栄養塩濃度の早期回復と漁業者の取組支援、水産資源の生育の場となる漁場整備や栽培漁業の推進などが必要

(2) 海域環境の変化に対応した水産資源の適正管理と水産技術の開発・普及

持続可能な水産業に向けて、海域環境のモニタリングと水産資源の調査に基づく適正な資源管理の実施や養殖技術の開発・普及などが必要

(3) 漁業の担い手の確保・育成と経営力の強化

次代を担う漁業後継者等の確保・育成と漁船や漁業施設の更新・導入・整備が必要

5 食料・消費

(1) 県民への農林水産物の安定供給

県民へ農林水産物を安定供給するためには、家畜の防疫体制の強化や安全で適正な農薬使用の推進、生産流通体制の構築などが必要

第2回企画部会でのご意見

家畜の防疫体制の強化の必要性が記載されているが、植物に関しても記載が必要ではないか。

(2) 県産県消の推進

県民への安定的な農林水産物の供給のため、消費者と生産者がともに支え合う関係の構築が必要

(3) 県民の食の安全・安心の確保

食の安全・安心を確保するための取組が必要

(4) 農林水産業への県民の理解醸成

農林水産の多面的機能や多様な担い手の確保、農林水産物の適正価格での流通などを図るためには、県民の理解醸成を図ることが必要

Ⅲ 具体的な課題

6 農山漁村

(1) 強みとなる地域資源を活かした地域づくりの推進

農山漁村の発展に向けて、地域の特色や食文化などを活かした地域活性化の取組が必要

(2) 都市と農山漁村の交流による地域活性化

農山漁村の関係人口や移住者の増加に向けて、都市と農林水産の交流が必要

(3) 野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくり

農山漁村の農業生産の維持・発展に向けて、野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制整備が必要

(4) 良好な空間の保全

多面的機能の維持や、交流・憩いの場を創出するため、良好な空間の保全が必要

(5) 他分野との連携の拡大

農山漁村に関わる人々を増加させるため、他分野との連携の拡大が必要

(6) 防災・減災対策

地域住民の安全確保のため、治山ダムや防潮堤など保全施設の整備などが必要

(7) 森林の持つ公益的機能の維持・向上

修正理由

森林・林業の課題としていたが、農山漁村の課題として整理

森林が有する水源涵養や山地防災機能等を発揮するためには、針広混交林化を含めた適正な森林管理が必要

(8) 地域資源の価値や魅力を活かした海業の振興

漁業関係者の所得向上や漁村地域の活性化のため、海業の振興が必要

III 具体的な課題

7 循環型社会の構築

第2回企画部会でのご意見

「環境負荷低減」は消極的に捉えられかねないので、変更を検討すべきではないか。

(1) 環境と調和のとれた農林水産業に対する消費者の理解醸成

環境と調和のとれた生産方式により生産された農産物などの安定生産のため、実需者等への理解醸成を図り、需要拡大を図ることが必要

修正理由

「環境創造型農業農産物」としていたが、正確な表現に修正

(2) バイオマスの利用拡大に向けた取組の拡大

持続的な農林水産業を推進するため、地域資源を活用した取組を拡大することが必要

(3) カーボンニュートラルの取組の拡大

農林水産業を持続的に行うためには、温暖化などを進行させない取組が必要

IV ビジョン見直しの方向性

第2回企画部会でのご意見

「環境と調和のとれた持続可能な農林水産業の実現」としているが、環境との調和についてはもっと上位に持ってくるべき言葉ではないか

見直しの方向性	考え方
<p>1 持続可能な農林水産業の実現</p> <p>(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開</p> <p>(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進</p> <p>(3) 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大</p> <p>(4) 豊かな海と持続的な水産業の実現</p> <p>(5) ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開</p> <p>(6) 県民への安定的な食料供給</p>	<p>環境負荷低減と生産性を両立し、持続可能な儲かる農林水産業の実現を図る</p> <p>農・畜・林・水産業の見直し方向をそれぞれ記載</p> <div data-bbox="1055 464 2213 644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第2回企画部会でのご意見</p> <p>「多様な人材が活躍する農山漁村の創出」としているが、地域施策をまとめる言葉として「多様な人材の活躍」が適切かどうか、再検討すべきではないか。</p> </div> <p>ブランド力の向上やブランド力を活かした販路拡大、6次産業化・異業種連携などの推進によって、生産拡大や所得向上を図る</p> <p>安定的に食料供給するため、家畜防疫の徹底等によって持続可能な生産体制を構築する</p>
<p>2 にぎわいのある農山漁村の創出</p> <p>(7) 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出</p> <p>(8) 農山漁村の維持・発展</p> <p>(9) 農山漁村の防災・減災対策の推進</p> <p>(10) 豊かな森づくりの推進</p>	<p>地域資源を活用し、多様な人々が関わり、にぎわいのある農山漁村の創出を図る</p> <p>農林水産物や食文化、景観、バイオマスなどの地域資源を活かした、農山漁村における新しいビジネスの創出を図る</p> <p>持続的で活力ある農山漁村の維持・発展を図る</p> <p>農山漁村の防災・減災対策の推進などによって、安心・安全な農山漁村づくりを図る</p> <p>森林の適正管理を推進し、県民みんなで森林の公益的機能の維持・向上を図る</p>
<p>3 県民とともに育む豊かな食・暮らしの充実</p> <p>(11) 「農」と多様な分野との連携強化</p> <p>(12) 県民とのつながりで育む食と「農」</p>	<p>農林漁業者と県民が連携することによって、ともに育み豊かな食・暮らしの充実を図る</p> <p>農林水産業・農山漁村と福祉・観光・健康・食品等の分野との連携によって、豊かな食・暮らしの充実を図る</p> <p>消費者に農林水産の理解醸成を図ることで、地産地消など地域が農林水産を支える仕組みの構築を図る</p>

修正理由

森林管理のあり方が大きく変わるため別項目とする

修正理由

「消費者への理解醸成」→ 県民とともに進める項目のため修正

第2回企画部会でのご意見

分割すべきではないか

V 農林水産ビジョン2035のめざす姿

次代につなぐ環境と調和のとれた ひょうご五国の農林水産業・農山漁村の実現（仮）

兵庫県の農林水産業・農山漁村のめざす姿として、今後議論いただく施策項目等の内容も加味し、めざす姿を記載予定。

地球温暖化の深刻化や社会情勢による食料供給が不安定になる中、多様な自然環境など兵庫県の強みを活かすとともに、新たな品種の開発・導入やスマート技術などを活用し、環境と調和を図りつつ、生産性の高い力強い農林水産業が展開されています。

また、自然災害への対応として、計画に基づく防災・減災対策や新たな森林整備手法などが進み、農山漁村コミュニティが維持・発展するとともに、都市部と農山漁村の交流が活発に行われ、地域活性化や地域資源を活用したビジネスの創出が実現しています。

さらに、福祉、観光、教育など多様な分野との連携が強化され、県民がひょうごの「農」とつながることで、県民や農林漁業者が健康で豊かな暮らしを実現しています。

V 農林水産ビジョン2035のめざす姿

基本方向 1 持続可能な農林水産業の実現

(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開

地域における話し合いによる合意がなされ、効率的・安定的な農業経営を営む者とそれ以外の多様な人材が協働して地域農業を支える体制が構築されています。効率的・安定的な農業経営のための生産基盤である農地の整備及び保全が適切に行われるとともに担い手に農地が集積・集約化され、気候変動や病害虫に耐性を持つ新品種やスマート農業技術の導入による生産性向上が進み、都市近郊の立地を活かした収益性の高い農業が展開されています。また、経営継承を円滑化する体制整備に加え、雇用環境の整備やサービス事業体の活用により、農業の労働力が確保されています。さらに、経営の視点を取り入れることによって有機農業を含む環境創造型農業が進展し、定着しています。

(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進

牛群改良や生産技術の向上により温暖化等気候変動への対応が進むとともに、スマート機器が広く普及し、省力化や生産性の向上により収益性の高い畜産業が展開されています。耕畜連携の推進により畜産堆肥の利活用が図られ、飼料作物が増産されています。また、但馬牛の生産・供給体制が強化され、旺盛な神戸ビーフの需要に応えるとともに、国内外で鶏卵などの県産畜産物の需要が高まっています。

(3) 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

「主伐・再造林低コスト普及モデル」が普及し、資源循環型林業が実現しています。スマート林業や高精度な森林資源情報の活用が進み、就労環境が向上し、新規就業者が定着するとともに、自伐型林家など多様な担い手が参入しています。県産木材の認知度が高まり、木育等の啓発も進んで民間施設や店舗、土木資材等での需要が拡大しています。林道や高性能林業機械とともに木材の加工流通体制が整備され、需要に対応した木材が安定的に供給されています。

V 農林水産ビジョン2035のめざす姿

基本方向1 持続可能な農林水産業の実現

(4) 豊かな海と持続的な水産業の実現

ひょうご豊かな海づくり県民会議と連携するなど地域住民や消費者の理解も得ながら栄養塩類が適正な水準に管理され、海底耕うんなど漁業者の取組や、漁場整備、種苗放流などにより豊かな海が再生しています。科学的な調査に基づく適正な資源管理が図られるとともに、温暖化等気候変動に対応した技術の普及や省エネ型漁船の導入が進み、海洋環境と調和のとれた持続可能な漁業が実現しています。経営感覚に優れた意欲ある経営者の確保・育成により円滑な世代交代が進んでいます。

(5) ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

環境との調和などの新しい視点を含めた県産農林水産物のブランドが評価され、農林漁業者の所得が向上しています。また、国内や海外での販路が開拓され、需要が拡大しています。

(6) 県民への安定的な食料供給

重大家畜伝染病に対する防疫体制の強化や安全で適正な農薬使用の推進、情勢の変化に左右されにくい生産流通体制の構築などにより、県民に安定的に食料が供給されています。また、食の安全を支える生産体制が構築され、県民の安全・安心が確保されています。

V 農林水産ビジョン2035のめざす姿

基本方向2 にぎわいのある農山漁村の創出

(7) 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

農林水産物や食文化、景観、バイオマスなどの地域資源が活用され、農山漁村における新しいビジネスが生まれています。漁村においては、漁港施設等を活用した販売施設の設置による水産物の消費増進や、漁業体験等による交流促進などが進んでいます。農林漁業体験などの都市との交流が活発に行われ、農林水産物の購入や二地域居住が進むなど多様な形で関係人口が増加し農山漁村が活性化しています。

(8) 農山漁村の維持・発展

野生鳥獣の個体数管理や被害管理を行う体制が整備され、鳥獣被害が減少しています。良好な農空間や里山林が再生・保全されるなど、農山村が持つ多面的な機能が維持されることにより、交流・憩いの場が創出されています。

(9) 農山漁村の防災・減災対策の推進

農業水利施設や山地・漁港の保全・整備、ICTの活用により、災害に強い安全・安心な農山漁村の暮らしが確保されています。

(10) 豊かな森づくりの推進

公的関与による針広混交林を含めた森林管理の適切な実施や、森林ボランティア等多様な主体による森づくり活動が行われ、森林が有する水源涵養や山地防災機能等の公益的機能が向上しています。

V 農林水産ビジョン2035のめざす姿

基本方向3 県民とともに育む豊かな食・暮らしの充実

(11) 「農」と多様な分野との連携強化

健康、福祉、観光、教育などの多様な分野との連携が強化され、農林水産業や農山漁村に関心が広がり、関わる人が増加しています。

(12) 県民とのつながりで育む食と「農」

県産県消の意義や県産木材の良さが消費者に理解され、県産農林水産物の認知度が向上するとともに、ひょうごの食と、農林水産業・農山漁村について、県民の理解がさらに進み、それぞれのライフスタイルとして「楽農生活」が実践されています。地域の景観維持や食文化、日本型食生活、環境と調和のとれた農林水産業に対する消費者の理解が広がり、合理的な価格形成が行われています。

VI 農林水産ビジョン2035の施策体系

めざす姿 基本方向

推進項目

推進方策

次代につながる環境と調和のとれたひょうご五国の農林水産業・農山漁村の実現(仮)

1

持続可能な農林水産業の実現

(1) 地域の特色や立地を活かした持続可能な農業の展開

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ①有機農業を含む環境創造型農業の推進 | ⑤労働力の確保に向けた環境の整備 |
| ②新品種やスマート農業技術の導入による生産性向上 | ⑥地域・担い手のニーズに応じた農地整備 |
| ③次代を担う経営力の高い担い手の確保・育成 | ⑦農地の確保と効率的な利用の促進 |
| ④地域協働体制を担う多様な人材の確保 | ⑧都市農業の推進 |

(2) 需要に応える持続可能な畜産業の推進

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| ①環境と調和のとれた畜産技術の推進と持続可能な畜産業の実現 | ②需要に応じた神戸ビーフの供給 |
| | ③国内外に向けた県産畜産物の発信強化 |

(3) 資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ①森林資源の循環利用と林業経営の効率化 | ③県産木材の利用拡大と加工流通体制の強化 |
| ②森林経営管理制度の推進 | ④次代を担う林業就業者の確保・育成 |

(4) 豊かな海と持続的な水産業の実現

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| ①豊かな海と持続的な水産業の実現 | ③漁業の担い手の確保・育成と経営力の強化 |
| ②海域環境の変化に対応した水産資源の適正管理と水産技術の開発・普及 | |

(5) ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| ①ブランド化による付加価値向上 | ③県産農林水産物の新たな価値の創出 |
| ②国内外での販路開拓による経営体の収益力の向上 | |

(6) 県民への安定的な食料供給

- | |
|-----------------|
| ①県民への農林水産物の安定供給 |
| ②県民の安全・安心の確保 |

2

にぎわいのある農山漁村の創出

(7) 地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ①地域資源の活用などの実践活動の推進 | ④都市と農林水産業・農山漁村の交流による地域活性化 |
| ②バイオマスの利用拡大 | |
| ③地域資源の価値や魅力を活かした海業の振興 | |

(8) 農山漁村の維持・発展

- | |
|------------------------|
| ①野生鳥獣の捕獲や被害対策に向けた体制づくり |
| ②良好な空間の保全 |

(9) 農山漁村の防災・減災対策の推進

- | | |
|------------------|----------------------|
| ①ため池災害の未然防止と避難対策 | ③漁港の耐震化と津波・高潮防災対策の推進 |
| ②山地防災・土砂災害対策の推進 | |

(10) 豊かな森づくりの推進

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ①森林適正管理による公益的機能の維持・向上 | ③森林病虫害対策の推進と保安林制度等の適正利用 |
| ②森林の防災機能の強化 | ④県民総参加による森づくりの推進 |

3

県民ととも豊かな暮らしの実現

(11) 「農」と多様な分野との連携強化

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ①農福連携の取組拡大 | ③学校給食等を通じた食農教育の推進 |
| ②観光・環境等分野との連携強化 | |

(12) 県民とのつながりで育む食と「農」

- | | |
|----------------------|----------|
| ①県産県消の推進 | ③楽農生活の推進 |
| ②農林水産業・農山漁村への県民の理解醸成 | |